

日本統治時代の朝鮮語教科書の俚諺について

鄭 芝 淑

キーワード：朝鮮の俚諺、朝鮮のことわざ、朝鮮語教科書、普通学校、PS リスト

1. はじめに

日本統治期に、朝鮮人学童のための初等教育機関である普通学校で使用する教科書が3度にわたって編纂された。日本は、1905年に大韓帝国を事実上の統治下に置き、韓国統監府を設置した。統監府では学校教育にも積極的に関与し、1907年から1908年にかけて学部が普通学校の教科書を編纂した。全教科の教科書を4か月ほどの短期間に作成したとされている。

1910年の韓国併合により朝鮮総督府が設置されると、学務局が教科書の編纂に着手したが、完成までに時間がかかるため、統監府が発行した教科書に若干の文言の訂正を加えて訂正版を発行し、当面これを普通学校の朝鮮語教科書として用いることにした。

総督府学務局では、2度にわたって普通学校教科書を編纂した。まず、1915年から1921年にかけて、第1期の教科書を編纂発行し、次いで1923年から1924年にかけて、これを改編して第2期の教科書を発行した。

この過程で、朝鮮語教育用の教科書として次の4点が発行されることになった。

- ① 統監府『普通学校学徒用國語讀本』（8巻、1907～1908年）【以下「統監府本」と略す】
- ② 総督府『訂正普通学校学徒用朝鮮語讀本』（8巻、1911年）【以下「訂正本」と略す】
- ③ 総督府第1期『普通学校朝鮮語及漢文讀本』（6巻、1915～1921年）【以下「1期本」と略す】
- ④ 総督府第2期『普通学校朝鮮語讀本』（6巻、1923～1924年）【以下「2期本」と略す】

これらの普通学校用朝鮮語教科書には、教育素材としてかなりの数の俚諺（ことわざ）が使われている。これらのことわざは何らかの基準に基づいて、一定の議論や検討を経て選ばれたと思われるが、残念ながらそれを知る手がかりは残されていない。どこかにあるのかもしれないが、少なくとも稿者は知らない。本稿は、そうした直接的な手がかりがないまま、これらの教科書のことわざそのものを検討することによって、ことわざの選定に影響したと思われる朝鮮のことわざをめぐる当時の状況の一端を探る試みである。

2. ことわざ件数

まず、分析の対象となることわざの件数から見ておくと次頁の表のとおりである。

普通学校朝鮮語教科書に採択されたことわざ件数

教科書	件数	内 訳
統監府本	31 件	巻 6 (10 件)、巻 7 (11 件)、巻 8 (10 件)
訂正本	29 件	巻 6 (9 件)、巻 7 (11 件)、巻 8 (9 件)
1 期本	32 件	巻 2 (8 件)、巻 3 (8 件)、巻 4 (6 件)、巻 5 (5 件)、巻 6 (5 件)
2 期本	17 件	巻 2 (5 件)、巻 3 (6 件)、巻 4 (6 件)

複数の教科書に重複していることわざもあるので、それを整理すると 65 件のことわざが用いられている。参考のために総督府の国語(日本語)教科書に登場することわざの件数と比べると、65 件というのはかなり多い数である。総督府第 1 期の『普通学校国語讀本』にもことわざが用いられているが、次の 9 件しかなく、第 2 期の教科書にはことわざはまったく用いられていない。

1 期『普通学校国語讀本』のことわざ

1	かせぐにおいつく貧乏なし
2	ちりもつもれば、山となる
3	朱にまじれば、赤くなる
4	人のふり見て、我がふり直せ
5	猿も木から落ちる
6	ころばぬさきの杖
7	氏よりそだち
8	馬をにがして、馬屋を直す
9	瓦一枚おしんで、棟をくさらす

これら 9 件のことわざのうち、最初の 7 件はよく知られた日本のことわざであるが、最後の 2 件は明らかに朝鮮のことわざである。つまり、朝鮮のことわざの日本語訳したものである。朝鮮の小学生には日本のことわざはなじみがなく、いくら日本でよく知られていても、理解しにくいのではと考えて、朝鮮のことわざを含めたのではないかと思われる。

このことと関連すると思われるが、総督府の国語教科書にはことわざが少ない代わりに、「なぞ」がいくつか素材として選ばれている。第 1 期『普通学校国語讀本』では 1 題のなぞが、第 2 期の日本語教科書ではことわざは 1 つもなく、なぞだけが 12 題使われている。

総督府『普通学校国語讀本』の「なぞ」¹⁾

No.	なぞ
1	私には、口も、目も、耳もありません。手も足もありません。まるいけれども、まりのようにまんまるではありません。うごかずに居ますが、死んだものではありません。私をころがすのは、誰にもできますが、立たせることはできません。又私どもを二つ重ねることは、どうしてもできません。私はそとが堅くて、中が軟らかです。堅い物にあたれば、すぐにこわれてしまいます。私は何でしょう。

No.	なぞ
2	とうげ三つこえたさきにある白い石はなんですか。
3	この山あの山の松をくいつくすくろい牛はなんですか。
4	まえの山では火がぼうぼう、うしろの穴ではけむりがもやもや、なんですか。
5	はじめは四本足であるき、それから二本足であるき、しまいには三本足であるくものはなんですか。
6	くろいものでも、白いものでも、赤いものでも、みんなくろく見えるのはなんですか。
7	一ツノロハムスンデイト、ハツノログアイテイル字ハ何トイウ字デスカ。
8	女ガ子ヲオブツテイル字ハ何トイウ字デスカ。
9	子ガ土ヲ棒ニトウシテ、頭ニノセテイル字ハ何トイウ字デスカ。
10	一尺一寸ノ家ハ何トイウ字デスカ。
11	十月十日ニ書イタ字ハ何トイウ字デスカ。
12	九十九ハ何トイウ字デスカ。
13	此ノ糸ハ何色デスカ。

一見して明らかのように、このようななぞのほうが児童の興味を引き、日本のことわざよりもはるかに好ましい教育素材であったであろう。

一方、朝鮮語の教科書の場合は、学童が日常的に接する機会のあることわざを教育素材として用いることにそれほど抵抗がなかったのではないと思われる。

3. 統監府本のことわざ

統監府本で採用された朝鮮のことわざは次の 31 件である。

統監府本のことわざ

No.	ことわざ	説明	巻課
1	붓도막의 소금도 집어넣어야 짜다. (かまどの塩もつまんで入れてこそ塩辛い)	いくら簡単なことでも手を下さなければ成就しない	六 11
2	三歳之習이 至于八十이라. (三歳の時の癖が八十歳まで続く)	【三つ子の魂百まで】	六 11
3	급하면 바늘허리 매어쓰나. (急ぐからといって針の腰に糸を結んで使えようか)	どんなに急いでも手順どおりに進めなければならない	六 11
4	塵合泰山이라. (塵集まって泰山)	【塵も積もれば山となる】	六 11
5	百聞이 不如一見이라. (百回聞いても一回見るのに及ばない)	【百聞は一見に如かず】	六 11
6	無虎洞中에 狸作虎라. (虎がいない穴の中では狸が虎になる)		六 11

No.	ことわざ	説明	巻課
7	人長之德이오 木長之害라. (人の背丈は大きさは徳、木の高さは害)		六 11
8	毒藥이 苦口나 利於病이라. (毒薬は口に苦いが病に利く)	【良薬口に苦し】	六 11
9	小貪大失이라. (小を貪り大を失う)		六 11
10	人誰無過리오 改之爲貴라. (人は誰も過ちを犯すもので、これを改めることが貴い)		六 11
11	우물을 파도 한 우물을 파라. (井戸を掘るにしても一つの井戸を掘れ)	何事でも一つのことによれば成功する	七 22
12	하로밤을 자도 萬里城을 쌓는다. (一夜寝ても万里の城を築く)	一瞬の交わりでも深いよしみを結ぶ	七 22
13	一馬之背에 兩鞍難載라. (一匹の馬に二つの鞍を載せられるか)	一つのことを懸命にせよ	七 22
14	한 몸에 두 持車질야. (一つの体に二つのしよいこを背負うか)	一人で二つのことを同時にはできない。	七 22
15	衝目之杖은 人皆有之라. (目を衝く棒は人みな持つ)	人は誰でも他人を恨む心を持っている。	七 22
16	地龍이도 드되던 꿈틀한다. (みみずも踏めばうごめく)	【一寸の虫にも五分の魂】	七 22
17	나물날 곳은 첫 三月브팀 안다. (芽生える所は三月初めから分かる)	【梅檀は双葉より芳し】	七 22
18	모난 돌이 증맛는다. (角のある石がのみで打たれる)	【出る杭は打たれる】	七 22
19	千金으로 買宅하고 八百으로 買隣이라. (千金で宅を買い八百で隣を買う)	良い家を持つと同じほど良い隣人を持つことが大事だ	七 22
20	白紙張도 맛들면 낫다. (白紙一枚でもいっしょに持ち上げれば楽だ)	どんなにたやすいことでも協力してするのがよい	七 22
21	뉘운 兒孩 먼저 품는다. (憎い子を先に抱く)	憎い人ほどそうではないよう装わないと相手の気持ちを和らげることはできない	七 22
22	말 일코 외양간 고친다. (馬を失くして馬小屋を直す)	【泥棒を見て縄を縛う】	八 8
23	臨渴掘井이라. (喉の渴いた者が井戸を掘る)	切羽詰まった人が仕事を急ぐこと	八 8
24	자라보고 놀란 가슴 솥뚜껑보고 놀란다. (スッポンを見て驚いた者が釜のふたを見て驚く)	【蛇にかまれて朽ち繩に怖ず】	八 8
25	欲速不達이라. (急ぐと達成できない)	【急いては事を仕損じる】	八 8
26	含血噴人이먼 先汚其口라. (血を含んで人を噴すれば先にその口を汚す)	人を害することはむしろ自分を害する	八 8
27	防民之口는 甚於防川이라.		八 8

No.	ことわざ	説明	巻課
	(民の口を防ぐことは川を防ぐことより危ない)		
28	隻掌難鳴이라. (両の掌が合ってこそ音が出る)	何でも一人ではなしえない; 互いに同等でないと喧嘩にならない	八 8
29	農夫餓死種子爲枕이라. (農夫は飢え死にしても種を枕にして死ぬ)	①農夫はいくら飢えても次の農業をする種は大事にするという意味②人は死ぬまで希望を捨てない③愚かで融通のきかないけちのこと	八 8
30	全痴는 誇妻하고 半痴는 誇子라. (大馬鹿者の妻自慢半馬鹿者の子自慢)	自分の妻や子を自慢するのはみっともない	八 8
31	盜之逮捕에 厥足이 自麻라. (泥棒が自分の足痺れる)	悪いことをすると気がとがめて必ずばれてしまう	八 8

教科書にはことわざだけが載せられているだけで、解説等は何もない。上のリストの日本語訳や説明は稿者が参考のために付け加えたものである。このことは以下に紹介する他の時期の教科書のことわざについても同じである。巻課の欄は、教科書の何巻の何課にあるかを示したもので、例えば「六 11」は 6 巻の 11 課を表す。

ことわざの表記には 3 種類の異なる形式が用いられている。第一はハングル表記のもので、次の例のようにすべてがハングルで表されている。

ハングル表記の例

No.	ことわざ
1	붓도막의 소금도 집어너어야 짜다. (かまどの塩もつまんで入れてこそ塩辛い)
11	우물을 파도 한 우물을 파라. (井戸を掘るにしても一つの井戸を掘れ)
18	모난 돌이 증맞는다. (角のある石がのみで打たれる)
24	자라보고 놀란 가슴 솥뚜껑보고 놀란다. (スッポンを見て驚いた者が釜のふたを見て驚く)

第二は国漢混交表記で、漢字語を漢字で表記したものである。

国漢混交表記の例

No.	ことわざ
3	急하면 바늘허리 매여쓰나. (急ぐからといって針の腰に糸を結んで使えようか)
17	나물날 곳은 첫 三月브텨 안다. (芽生えるところは三月初めから分かる)
20	白紙張도 맞들면 낫다. (白紙一枚でもいっしょに持ち上げれば楽だ)

現在、韓国語では漢字をほとんど用いないため、このような例もすべてハングルで表記するが、当時は、漢字語を含む場合には国漢混交表記にするのが普通であった。

第三の表記法は漢文表現を読み下したものである。

漢文読み下し表記の例

No.	ことわざ
2	三歳之習이 至于八十이라. (三歳の時の癖が八十歳まで続く)
4	塵合泰山이라. (塵集まって泰山)
5	百聞이 不如一見이라. (百回聞いても一回見るのに及ばない)
6	無虎洞中에 狸作虎라. (虎がいない洞中では狸が虎になる)
8	毒藥 ²⁾ 이 苦口나 利於病이라. (良薬は苦いが病に利く)
9	小貪大失이라. (小を貪り大を失う)
13	一馬之背에 兩鞍難載라. (一匹の馬に二つの鞍を載せられるか)
29	農夫餓死種子爲枕이라. (農夫は飢え死にしても種を枕にして死ぬ)

これは一見第二の国漢混交表記と同じに見えるが、文章の種類から考えて別の表記法とみなすべきである。国漢混交表記が朝鮮語表現のことわざを表記したものであるのに対して、第三の表記の基になっているのは漢文で表現されたことわざであるからである。一見して明らかなように、これは純粋の漢文表現ではない。意味の理解を助けるために助詞や文末や文中の活用要素を適宜補った漢文読み下し文である。ただ、韓国朝鮮語式の漢文読み下しでは、日本語の場合とは異なり、元の漢文の語順を変えることはまったくなく、漢字語を訓読することもない。したがって、表現は元の漢文に限りなく近いものにとどまっている。それを端的に示す例は最後の29番の例である。漢語表現の終わりに日本語の「ナリ」にあたる「～(이)라」を付けただけである。

なお、ハングルの綴りが現在のものと異なるものも多い。この当時から今日に至るまでに、ハングルの正書法に何度も変更が加えられてきたためである。

4. 訂正本のことわざ

統監府本は、総督府成立後の急場を凌ぐために、「日語」を「国語」に、「内地」を「日本」に、「我が国や韓国」を「朝鮮」に替えるなど若干の文言の訂正を加えて、訂正本として使用されたとされているが、その際、朝鮮語教育素材として用いられたことわざには、一部、実質的な手直しが加えられている。統監府本のことわざ31件のうち9件が削除され、代わりに、別な7件のことわざが追加された。

訂正本で削除されたことわざは、次の9件である。

訂正本で削除されたことわざ

No.	ことわざ
7	人長之德이오 木長之害라. (人の背丈が高いのは徳、木が高いのは害)
15	衝目之杖은 人皆有之라. (目を衝く棒は人みな持つ)
16	地龍이도 드디면 꿈틀한다. (みみずも踏めばうごめく)
26	含血噴人이면 先汚其口라. (血を含んで人を噴すれば先にその口を汚す)
27	防民之口는 甚於防川이라. (民の口を防ぐことは川を防ぐことより危ない)
28	隻掌難鳴이라. (両の掌が合ってこそ音が出る)

No.	ことわざ
29	農夫餓死種子爲枕이라. (農夫は飢え死にしても種を枕にして死ぬ)
30	全痴는 誇妻하고 半痴는 誇子라. (大馬鹿者の妻自慢半馬鹿者の子自慢)
31	盜之逮捕에 厥足이 自麻라. (泥棒が自分の足痺れる)

これらのことわざがなぜ省略されたかについては何らかの議論があったはずであるが、その記録は残っていない。しかし、これらのことわざが削除された理由を推測することはそれほど難しいことではない。一言で言えば、小学生用の教材として適切ではないと判断されたのであろう。特に、16番や27番などのようなことわざは統治政策にとって都合が悪いと考えられたと思われる。

先述のように、統監府本の教科書は4か月ほどの短期間の間にかなり急いで編纂された。朝鮮語の教科書のことわざを選択するために十分な議論をする余裕はなかったと考えられる。時間的な制約だけではない。朝鮮のことわざに関する知識も資料も乏しかったと思われる。訂正本で削除されたものばかりでなく統監府本のことわざ全体をみても、あまり一般的でないものが多く、適当に選ばれたという印象が強い。

もっとも、当時のことわざが一般的であったかどうかについてはわかっていないので、現在の状況から推測するより仕方がない。そのための方法の一つとして、稿者が作成したPSリストというものを使ってみよう。³⁾これは、近年に韓国で刊行された28点のことわざ辞典・ことわざ集を資料にして、多くの辞典に収録されているものほど一般的に知られている度合いが高いことわざであると見なすという手順で作成された、約8,000件のことわざの順位づけリストである。⁴⁾

PSリストの上位500位程度までのものを、一応、「基本ことわざ」とみなすことにして統監府本のことわざをみると、31件のことわざのうち基本ことわざは17件にすぎず、PSリストに含まれてさえないものが6件(14番、15番、21番、25番、26番、27番)もある。このことから、統監府本のことわざは、十分な資料の中から慎重に選ばれたものとは考えにくい。

日本の朝鮮統治が進むにつれて朝鮮の諸事情に関する日本人の関心が高まっていった。その過程で、朝鮮のことわざに対する日本人の知識が広まり深まっていったのであるが、統監府本が編纂された時期には、まだ、その知識は非常に初歩的な段階であったと思われる。したがって、きわめて限定的な情報に基づいてことわざを選ばなければならなかったと考えられる。

一方、訂正本で追加されたことわざは次の7件である。

「訂正本」で追加されたことわざ

No.	ことわざ	説明	巻課
1	勤勞가 出門하면 貧苦가 入窓한다. (勤勞が門から出れば貧苦が窓から入ってくる)	勤勞を怠れば家は貧しくなる	七 19
2	正直은 一生의 寶라. (正直は一生の宝)		七 19
3	구든 땅에 물이 된다. (堅い地面に水がたまる)	意志が堅くなければ金はたまらない	八 6

No.	ことわざ	説明	巻課
4	熟知하는 길도問하야 往하라. (知っている道も尋ねて行け)	【念には念を入れよ】	八 6
5	走馬加鞭이라. (走る馬に鞭を加える)		八 6
6	낮말은 새가 듣고 밤말은 쥐가 듣는다. (昼の話は鳥が聞き、夜の話はネズミが聞く)	【壁に耳あり障子に目あり】	八 6
7	뽕은 배도 씹을 게라. (渋い梨も口に慣れしだい)	嫌なことでもやがては慣れるものだ	八 6

これをみると、確かに教科書の素材として無難なものが追加されている。

5. 1期本のことわざ

1期本のことわざ32件は次のとおりである。

1期本のことわざ

No.	朝鮮語表記	漢文表記	説明	巻課
1	세살의 버릇이 여든까지 간다. (三歳の時の癖が八十歳まで続く)	三歲之習이 至于八十이 라.	【三つ子の魂百まで】	二 16
2	소 일코 외양간 곳친다. (牛を失くして牛小屋を直す)	既失其牛하고 乃葦厩라.	【泥棒を見て縄を縛う】	二 16
3	낮말은 새가 듣고 밤말은 쥐가 듣는다. (昼の話は鳥が聞き、夜の話はネズミが聞く)	晝言雀聽하고 夜言鼠聆이 라.	【壁に耳あり障子に目あり】	二 16
4	필성불은 나물은 떡넉부터 알아본다. (見込める木は子葉のころから見分けがつく)	蔬之將善은 兩葉可辨이 라.	【梅檀は双葉より芳し】	二 16
5	쇠귀에 경 읽기. (牛の耳に経を読む)	牛耳誦經에 何能諦聽이 리 요.	【馬も耳に念仏】	二 53
6	단단한 땅에 물이 괴이느니. (堅い地面に水がたまる)	行潦之聚가 亦又硬土니 라.	意志が堅くなければ金はたまらない	二 53
7	아니 때인 굴뚝에 연기 날까. (焚かぬ煙突から煙が上がるか)	竈苟不燃하면 埃豈生烟가.	【火のない所に煙は立たぬ】	二 53
8	수박 잣 할기로. (西瓜の皮舐め)	西瓜外舐하면 不識內美니 라.	内実も知らず表面的に事を行う	二 53
9	되로 주고, 말로 받는다. (一升枡で与えて一斗枡で受ける)	始用升授하고 迺以斗受라.	他人を困らせると何倍もの報いを受ける	三 30
10	뺨새가 황새를 맡아가면, 다리가 찌여진다. (ダルマエナガがコウトリの歩き方をまねると股が裂ける)	鷄效鶴步하면 載裂厥胯라.	人の真似をして自分の能力以上のことをするとひどい目に合う	三 30

No.	朝鮮語表記	漢文表記	説明	巻課
11	나무에 잘 올으는 놈 떨어지고, 헤엄 잘 치는 놈 빠져 죽는다. (木登り上手が木から落ち泳ぎ上手が溺れ死ぬ)	善攀者落하고 善泅者溺이라.	人は自分の持ち合わせている腕前を過信して往々にして失敗するものだという事	三 30
12	죽은 자식 나 세여보기. (死んだ子の年を数える)	既歿之子를 胡算其齒오.	何の効果もないのにやってみる【死んだ子の年を数える】	三 30
13	배 먹고 이 닦기. (梨を食べて齒磨き)	啖梨之美하고 兼以濯齒니라.	【一挙兩得】	三 41
14	하로개아지 범 무서운 줄 몰은다. (生まれたての子犬虎の怖さを知らぬ)	一日之狗- 不知 畏虎라.	鞭で無能な者がいたずらに跳ね回っている【怖いもの知らず】	三 41
15	말 타니, 경마 잡히고 쉽다. (馬に乗ると馬子が欲しくなる)	既乘其馬하니 又思牽者라.	【隴を得て蜀を望む、慾に限りなし】	三 41
16	제 배 불으니까, 종의 밥 짓지 않는다. (自分の腹がいっぱいと使用人の飯は炊かない)	我腹既飽하니 不察奴飢라.	自分本意で他人を思いやる気持ちが無い	三 41
17	개꼬리 삼년 두어도, 황모 되지 못한다. (犬の尾は三年経てもイタチの毛にはなれない)	狗尾三菁에 不成黃毛라.	劣ったものが年月を経たからといってよくなるわけではない	四 50
18	가마귀 날자, 배 떨어진다. (鳥が飛び立つや梨が落ちる)	鳥之方飛에 有隕其梨라.	まったく関係のない二つのことが同時に起きたために思わぬ疑いをかけられる	四 50
19	성 내여 돌부리 차면, 내 발부리 아프다. (腹が立って石を蹴ると自分の足だけ痛い)	發怒蹴石하면 我足是痛이라.	腹立ち紛れに馬鹿なことをして損を見る	四 50
20	피똥 잡으러 갔다가, 집똥 일렀다. (猪を捕まえに行き家の豚をなくす)	逐彼山豕라가 竝失家彘라	遠いところにあるものを手に入れようとして持っていたものを失う	四 50
21	아는 독기에, 발등 찍혔다. (自分の斧に足の甲を切られる)	慣熟之斧에 乃傷足背	自分の信じている者に裏切られる	四 50
22	자라 보고 놀란 놈이, 솟뜩게 보고도 놀란다. (スッポンを見て驚いた者が釜のふたを見て驚く)	嚇于鼈者-尙 驚鼎蓋라.	【蛇にかまれて朽ち繩に怖ず】	四 50
23	기와짱 하나 앓기다가, 대들보 썩인다. (瓦一枚惜しんで梁を腐らす)	由惜一瓦하야 朽摧大樑이라.	わずかなものを惜しんで大きな損害を被る	五 52
24	꼭뒤에 분물이 발뒤꿈치로 흘린다. (頭に注いだ水は足へ流れる)	灌頂之水는 必流于趾라.	目上の者が悪いことをすればその害が下の者に及ぶ	五 52
25	손톱에 가시든 줄은 알어도, 엄통에 쉬스는 줄 몰은다. (爪の下に棘が刺さるのは分かっても心臓の下に蛆がわくのは知らない)	爪芒能知나 心蛆罔覺이라.	小利にはさといが大きな利害には疎い【一文惜しみの百知らず】	五 52
26	종로에서 뺨맞고, 한강 가서 눈 흘킨다. (鐘路で頬をぶたれ漢江でにらみつける)	頰批鍾路하고 眼睨漢江이라.	人に辱められてもその場では黙っていて別のところで憤慨する	五 52
27	새벽달 보자고, 초저녁부터 나안는다. (朝早く月を見たいと、初夜から寝ない)	爲觀曉月하야 自昏出坐라.	時期が到来していないのに手回しが早すぎる	五 52

No.	朝鮮語表記	漢文表記	説明	巻課
	(夜明けの月をみようと夕暮れから待つ)			
28	아니되는 놈의 일은, 잣마저도 코가 깨진다. (運がない人は倒れても鼻が折れる)	窮人之事능 沛亦破鼻라.	運のない人のこと	六 39
29	손톱에 든 가지는 알아도, 엄통에 쉬스는 줄 몰은다. (爪の下に棘が刺さるのは分かっても心臓の下に蛆がわくのは知らない)	爪芒能知나 心蛆罔覺이 라.	小利にはさといが大きな利害には疎い【一文惜しみの百知らず】	六 39
30	한잔 술에 눈물 난다. (一杯の酒に涙する)	由酒一盞하야 或淚厥眼이 라.	酒をついでくれる友情は感無量だ	六 39
31	말많은 집안에, 장이 쓰다. (言葉の多い家は醤油の味も苦い)	多言之家애 醬味云苦라.	小言が多くいざごの絶えない家庭の暮らしはうまくいかない	六 39
32	도적을 뒤로 잡지, 압흐로 잡을가. (泥棒を後ろで捕まえるもので前で捕まえるものか)	盜以後捉이오 不可前捉이 라.	泥棒は正面で捕まえるのではなく、ひそかに証拠を確保して捕まえるものだ	六 39

1期本の教科書は漢文の教科書との合本となっているため、ことわざはすべて朝鮮語と漢文の両様に表記されている。朝鮮語のことわざはハングル表記で、漢文のものは漢文読み下し表記で与えられている。

意味内容の点から見ると、普通学校の教材として適切であるかどうかは別にして、少なくとも大きく不都合と思われるものは見当たらない。

25番と29番のことわざは、朝鮮語表記に若干の違いがあるが同じことわざの異形である。記載されている教科書は第5巻と第6巻で異なるが、同じ3年生用の教科書である。形が違うとはいえ、同じことわざが重複して用いられている理由についてはよくわからない。

1期本の教科書のことわざは、全体的に見て、統監府本のものに比べて一般的に知られたことわざがよく選ばれているという印象を受ける。これを、PSリストに照らして調べてみると、32件のうち26件は「基本ことわざ500」の範疇に入っており、残り6件(12番、16番、20番、24番、30番、32番)も上位2000件までの中に入っている。これを先述の統監府本の結果と比べてみると顕著な違いがある。明らかに、1期本のことわざは、質量ともに十分な資料に基づいて、朝鮮のことわざに関心を持った編纂者の慎重な検討を経て選択されたものであるという印象が強い。

統監府本と1期本の編纂時期は10年程度の違いしかないが、この間に朝鮮のことわざについての日本人の知識は、大きく変わった。朝鮮ことわざに特別な関心を持つ日本人が積極的な蒐集活動を始め高橋亨(1910、1914)のようにその結果を出版したし、総督府学務局で教科書の編纂に従事した人の中にことわざに特別な関心を持つ人がいたと思われる。

それに、何よりも重要なことは1912年に総督府学務局が『俚謡・俚諺及通俗的読物等調査』を行ったことによって、朝鮮全土から多数のことわざが収集されたことである。この調査は、準備不足や調査方法、結果報告の様式の不徹底などのために様々な問題点があるが、朝鮮で初めて行われた大規模

調査であった。総督府調査の目的の1つが教科書の編纂にあったので、その調査結果が朝鮮語教科書の素材としてのことわざの選択に利用されたことは明らかである。

6. 2期本のことわざ

2期本のことわざ17件は以下のとおりである。

2期本のことわざ

No.	ことわざ	説明	巻課
1	쇠귀에 경 읽기. (牛の耳に経を読む)	【馬も耳に念仏】	二 7
2	수박 껍질 핥기. (西瓜の皮舐め)	内実も知らず表面的に事を行う	二 7
3	소 일코 외양간 곳친다. (牛を失くして牛小屋を直す)	【泥棒を見て縄を縋う】	二 7
4	단단한 땅에 물이 고인다. (堅い地面に水がたまる)	意志が堅くなければ金はたまらない	二 7
5	개고리가 올챙이 짝 생각을 못한다. (蛙がオタマジャクシの頃を思い出せない)	成功した後、昔の苦勞を忘れて偉そうにふるまう	二 7
6	배 먹고, 니 닦기. (梨を食べて歯磨き)	【一挙兩得】	三 26
7	功든 탑이 문어지랴. (功積みし塔が崩れようか)	真心を込めてした事が無駄に終わるようなことは決してない	三 26
8	말 타면, 경마 잡히고싶다. (馬に乗ると馬子が欲しくなる)	【隴を得て蜀を望む、慾に限りなし】	三 26
9	되로 주고, 말로 받는다. (一升枱で与えて一斗枱で受ける)	他人を困らせると何倍もの報いを受ける	三 26
10	아는 독기에 발등 찍힌다. (自分の斧に足の甲を切られる)	【飼い犬に手を噛まれる】	三 26
11	하로강아지 범 무서운 줄 몰른다. (生まれたての子犬虎の怖さを知らぬ)	鞭で無能な者がいはずらに跳ね回っている【怖いもの知らず】	三 26
12	아니 때인 굴뚝에, 연기 날가. (焚かぬ煙突から煙が上がろうか)	【火のない所に煙は立たぬ】	四 4
13	부뚜막의 소금도, 집어넣어야 짜다. (かまどの塩もつまんで入れてこそ塩辛い)	いくら簡単なことでも手を下さなければ成就しない	四 4
14	세살 짝 버릇이 여든까지 간다. (三歳の時の癖が八十歳まで続く)	【三つ子の魂百まで】	四 4
15	낮말은 새가 듣고, 밤말은 쥐가 듣는다. (昼の話は鳥が聞き、夜の話はネズミが聞く)	【壁に耳あり障子に目あり】	四 4
16	죽은 자식 나 세여보기. (死んだ子の年を数える)	何の効果もないのにやってみる【死んだ子の年を数える】	四 4
17	될성불은 나물은, 떡닙부터 알아본다. (見込める木は子葉のころから見分けがつく)	【梅檀は双葉より芳し】	四 4

2期本では再度「漢文讀本」が別途編纂されることになったため、朝鮮語教科書のことわざはすべて朝鮮語のものであり、表記はすべてハングル表記となっている。

2期本で最も目立つことは、ことわざの数が少なくなったことである。1期本のことわざが32件で

あったのに比べて、2期本では17件と半減している。しかし、両者を照らし合わせてみると、2期本のことわざのほとんどが1期本のことわざと重複している。1期本にないものは17件中3件（5番、7番、13番）だけである。そして、重要なことは、2期本の17件のうち1件（14番）を除いてすべてPSリストの「基本ことわざ500」の範疇に入っていることである。このことから、2期本の編纂にあたって、まずことわざの件数を減らすことが決定され、1期本のことわざのうち一般によく知られたものを残すことを基本として、削除・追加の作業が進められたのではないかと推測される。

ことわざ件数を減らすことになった理由はわからないが、その代わりに2期本では「格言」と称して西洋語由来の表現が6件新たに採用されている。1期本との差別化を図るため西洋の価値観にも目を向けるという新機軸ではなかったかと思われる。

2期本の「格言」

格言	由来	巻課
光陰은 金錢이라. (光陰は金錢)	Time is money.	五 15
習慣은 第二의 天性이라. (習慣は第二の天性)	Habit is a second nature.	五 15
名譽는 責任을 가져오나니라. (名誉は責任を伴う)	Noblesse oblige. ⁵⁾	五 15
하날은 스스로 돕는 이를 도우시나니라. (天は自ら助ける者を助ける)	Heaven helps those who help themselves.	五 15
今日에 할수잇는 일을, 來日로 밀으지 말라. (今日できることを明日に持ち越すな)	Never put off till tomorrow what you can do today.	五 15
光明만은 곳에, 陰影이 만오니라. (光明多いところに、陰影が多い)	Plenty of light, plenty of shadow. [ゲーテの言葉]	五 15

7. むすび

日本統治期に普通学校の朝鮮語教育用の教科書4種に教育素材として採り上げられた朝鮮のことわざのリストを最初に見たとき、それは単なる少数のことわざのリストにしか見えなかった。そこに記載されていることわざが当時知られ使われ、学校で児童に教えられていた、という当たり前の事実以外のことを、そのリストから推論できるとは思われなかった。しかし、考えてみれば、そのリストは単なることわざのリストではない。日本統治期という特定の時期に、共通の目的（教材の選定）のために、一定の間隔を置いて順次作られたリストである。したがって、時間を追ってリストを照らし合わせて検討すれば何か推論できることがあるのではないかと思われた。そして、初期のリストほど、一般に知られていないいわば周辺的なことわざが多いという印象があったので、これを確かめるために稿者が作成したPSリストを利用することが出来るのではないかと考えた。このような前提で4種の朝鮮語教科書のことわざを分析した結果が本稿である。

分析結果を要約すれば次のようになる。

- (1) 統監府本が編纂された時期には、朝鮮のことわざについての日本人の知識・情報は非常に乏しかった。統監府本のことわざは、十分なことわざ資料に基づく慎重な議論を経て選ばれたものとは考えられない。当時よく知られていたとは思われないことわざや、教育素材として不適切なことわざがかなり含まれている。
- (2) 訂正本では不適切なことわざが削除され、新たなことわざが追加された。この時、教材としてのことわざの選定基準が意識されたと思われる。
- (3) 総督府の1期本のことわざは、大半が一般によく知られたことわざの中から選ばれており、十分な資料に基づいて選定がなされたことが分かる。この時期までに、日本人による積極的なことわざ蒐集の成果が刊行されたり、総督府による大規模調査が行われたりした結果、朝鮮のことわざに関する知識・情報が急激に増加した。
- (4) 2期本のことわざは件数が半減するが、基本的に、1期本のことわざのうち基本的なものを選ぶという形で選ばれた。十分なことわざ知識・情報が土台になっていったことをさらに強く示唆している。

教科書編纂者の立場になって考えれば、ことわざを教材として用いるのなら、意味内容が適切なものを選ぶということだけではなく、できるだけよく知られたものを選ぶということも選定基準として意識されるのではないかとと思われる。上の流れは、ことわざに関する知識・情報が益すとともに、その基準が達成されていった過程であると考えられることもできる。

*本稿は、2022年12月3日（土）に開催されたことわざ学会第34回フォーラムで口頭発表した内容を加筆・訂正したものである。

謝辞

本研究はJSPS 科研費 JP21K00461 の助成を受けたものです。

注

- 1) 答は与えられていないが、次のとおりである。2番から13番までのなぞは朝鮮総督府（1919）に載っている。
- 2.爪 3.オンドルの焚口 4.煙管 5.人 6.影 7.「井」の字 8.「好」の字 9.「孝」の字 10.「寺」の字 11.「朝」の字 12.「白」の字 13.「紫」の字。
- 2) 「毒薬」は、「強い薬」の意味で使われていた。北村孝一監修（2012）の「忠言耳に逆らう」の項目を参照。
- 3) 日本統治期と現代では100年を超える時のへだたりがあるけれども、よく知られたことわざについての意識には、この程度の時間差はそれほど大きく影響しないのではないかと考えられる。以前に、日本のことわざについて、明治末期ごろのもの現代のものとを対照させたことがあるが、重要なことわざについては大きな意識の差

- がないという知見を得た。鄭芝淑（2018）を参照。
- 4) PS リストについての詳細は、鄭芝淑（2007、2009）を参照。
- 5) この表現に由来するのではないかということは、ことわざ学会の北村孝一先生よりご教示いただいた。

参考文献

- 北村孝一監修（2012）『故事俗信ことわざ大辞典』第二版、小学館
- 金廣植（2014）『植民地期における日本語朝鮮説話集の研究—帝国日本の「学知」と朝鮮民俗学』勉誠出版
- 金廣植（2020）『韓国・朝鮮説話学の形成と展開』勉誠出版
- 高橋亨（1910）『朝鮮の物語集 附俚諺』日韓書房
- 高橋亨（1914）『朝鮮の俚諺集 附物語』日韓書房
- 朝鮮総督府（1919）『朝鮮民俗資料第一編 朝鮮の謎』大阪屋號書店
- 鄭芝淑（2007）『日本と韓国のことわざの比較研究—ことわざスペクトルと比較ことわざ学—』（名古屋大学大学院 国際言語文化研究科博士学位論文）
- 鄭芝淑（2009）「日韓のことわざ比較 —比較ことわざ学の試み—」『国文学 解釈と鑑賞』74（12）、至文堂編、pp.155-165
- 鄭芝淑（2018）「明治期と平成期のことわざ—百年の間にことわざはどう変わったか—」『ことわざ文化学研究』（1）、日本ことわざ文化学会、pp.1-16